

リアルタイム現地情報

「笑みたわわ」現地検討会および意見交換会が開催されました

8月24日(水)に全農茨城県本部が主催し、米粉用品種「笑みたわわ」の現地検討会(鹿嶋市)及び意見交換会(JAなめがたしおさい麻生営農経済センター)が開催され、生産者・関係機関25名が参加しました。

「笑みたわわ」は、米粉用多収品種「ミズホチカラ」より熟期は早いが同等の収量が確保できることから、普及センターは令和3年度よりJAなめがたしおさいと共同で栽培試験を実施してきました。

また、「笑みたわわ」は、米粉にした際デンプン損傷率が低く、粒径が小さいことから製パンにした時の品質が高い特徴があります。

当管内での「笑みたわわ」の栽培面積は、鹿嶋市内でR3年産は生産者4名で1.5haでしたが、R4年産は生産者7名で5haと実需者の要望に応え面積が拡大しました。

現地検討会では、普及センターから実証ほの概要、生育状況等について説明し、意見交換会では、JA全農より昨年度の取組の概要、今後の生産振興について、実需者からは「笑みたわわ」を使ったパンの試作の取り組み状況等について情報提供がありその後意見交換を行いました。

普及センターは、需要に応じた米作りをJA全農茨城県本部、JAなめがたしおさいと進めるため生産者へ栽培特性の周知と多収栽培を支援し所得向上を図っていきます。

8月26日(儲かる農業)

